UAEL

URBAN AMENITY ENGINEERING lab.

No.14
2015. 10

2. 巻頭言
3-5. 夏季集中研究
6. 建築学研修
7. 学生自主研究、教員・院生の活動報告
8. 学科ニュース、同窓会、OB･OGの今

「SENBA Bldg」東海林優介 撮影

秋田県立大学　建築環境システム学科　計画学講座　都市アメニティ研究室

巻頭言

こどもにやさしいまちの評価

恩師の仙田満先生の呼びかけの下で、こどもにやさしいまちの評価を試みる共同研究が進められている。全国の様々な都市に住む研究者達が集まって議論しているので、それぞれの立場からの意見の違いが興味深い。政令指定都市のような大都市にいる研究者は、こどもの発育に良い環境として、施設の充実度を指標にすることを求める。それは正しい視点なのだが、地方の中小都市は著しく不利となる。それでは、大都市のこどもの方が恵まれているのかと問われれば、そう単純ではないだろう。

問題が多くなればなるほど、必要なものが不足すればするほど、それらに応じた施設が必要になってくると言えるからだ。問題が多いのに施設が足りない都市よりはマシかも知れないが、こどもの生活環境の質が特別な施設なしに十分な高さであれば、最も理想的と言える。つまり、施設の有無で評価するなら、もともと問題を発生しうる条件を持った都市のみを対象とすることになる。すると、地方の小都市にいる研究者の立場としては物足りない。対案を出せれば良いが、現実的に調査できることも限界がある。共同研究は 10 人ほどのチームで進められているが、私以外の全員が、政令指定都市か、それに隣接するところに職場と住居を持っている。多勢に無勢のまま研究は進んでいく。研究期間が終了してから、小都市や山間部に住む人達に反発されないためにも大都市偏重型の成果にならない努力を続けたい。

話は変わり、世間では安保法案が取り沙汰されているので、関連することを一つ。大卒・院卒のエリートである OB・OG の諸君には、この機会に世界や我が国の将来像について、よく考え議論してもらいたいと願う。大切なのは何に反対するか以上に、どうしていきたいかである。マザーテレサは反戦運動には参加せず平和運動には参加したと聞く。反対というネガティブなエネルギーだけでは物事は最終的な解決に向かわない。これは映画「イエスマン」を見れば感覚的につかめる。何にも反対するなとは言わないが、平和な世界を創っていくことに意識を集中すれば、その結果、消えるべきものは消え、残るべきものは残っていく。

浅野　耕一 (あさの　こういち)
建築都市アメニティグループ
都市アメニティ工学分野

まちづくりのドラマツルギー

●大きな流れ

中心市街地再生の実現には、人口減少に見合った的確な土地利用規制と集まって住むに相応しい公共交通政策のマクロな取組みに加え、魅力ある市街地を再生する「まちづくり」のミクロな取組みが欠かせない。

地元の大門・本町通りの沿道景観形成が事業化し、由利橋先の石脇通りの「まちづくり」も始動した。本荘中心市街地再生の物語はライティングの段階にある。

●正のスパイラルを実感！

昨年度の石脇通り再生をテーマにした夏季集中研究の発表を見た医療系 NPO から連絡があり、また、地元町内会役員やブラウブリッツあきた等の団体も加わって、「石脇通りと由利橋　今昔の由利本荘を浴衣で歩こう！」の実行委員会が 3 月に結成された。

この会の良い点は、実行委員会の名称の通り、それぞれが評論に留まることなく、提案者自らがその実現に向けての取組みを展開したことにある。当研究室は、竹籠でつくる「たんころりん」の製作とイベント当日の歴史的景観の演出担当として、16 名総力を挙げての取組んだ。その結果、予想もつかぬ多くの来場者が石脇通りの夕暮れの風情を楽しみ、その数は 2,000 人とも言われる賑わいとなった。

「地の利」、「人の和」、「天の時」。この 3 つが揃ったことで、最近にはない正のスパイラルを実感することができた。まちづくりのドラマツルギーである。

●持続性と発展性

「来年もぜひやってほしい。」と多くの方から言われている。「今度は実行委員会の一員として関わりたい。」というありがたい声も聞いた。実行委員会はより大きくなって活動するだろう。我々の研究室も、単なるボランティアではなく都市・地域計画、まちづくりという専門性を通した参画となっている。一過性ではない持続性と発展性を内方した取組みがここでも芽吹いた、と言ってよいだろう。

山口　邦雄 (やまぐち　くにお)
建築都市アメニティグループ
都市アメニティ工学分野

■「石脇通りと由利橋、今昔の由利本荘を浴衣で歩こう！実行委員会」の概要とその様子

実行委員会の打ち合わせの様子

昨年度の都市アメニティ研究室夏期集中研究の成果発表を受けて、NPO 法人由利本荘にかほ市民が健康を守る会の谷合久憲氏が、石脇通りの昔ながらの街並みと由利橋の現代美という素晴らしさを再発見して頂く良いタイミングだとして、由利本荘市へ「地域づくり推進事業」事業要望書を提出したことが事の発端です。この後に発足した実行委員会の参加者は NPO 法人由利本荘にかほ市民が健康を守る会、上町・中町・新町町内会、（株）齋彌酒造店、ブラウブリッツ秋田、都市アメニティ研究室です。この実行委員会の打ち合わせでは、ポスターのデザイン、足助たんころりんの会の招聘計画等を議論しました。このような議論内容に対して、多様な参加団体・企業が持つ視点から、アイディアや意見が挙がりました。（荒生・４年）

■ 石脇と足助の交流 ーたんころりん製作ー

7 月 4、5 日に、愛知県豊田市にある足助町の「たんころりんの会」のメンバー 3 人を招聘して、たんころりんの講習会を行いました。8 月 15 日には、地域参加型のたんころりん製作会を行いました。足助町での、たんころりんの取組みは今年で 14 回目となり、毎年 8 月の夜に古い町並み（約 1.3km）の街道沿いに並べ、和紙を通した火の灯かりで暗がりの町並みを照らし、夏夜の情緒を演出しています。

足助の方々による講習会を開催し、たんころりんを作る際のポイントや注意点などを指導して頂きました。

たんころりんの材料は、竹、結束バンド（大・小）、塩ビパイプ（直径 20cm）、和紙で、1 基当たり、剥ぎ竹 18 本、割り竹 2 本が必要です。

荒生君による製作指導

初めての人でも、たんころりん 1 基作るのに 2 時間ほどで完成できます。事前講習を受けた学生は、慣れると 1 時間ほどで完成させました。足助の方々は、30 分で作り上げるそうです！綺麗かつ敏速な動きで目を奪われました。

地域の方々が参加して行った 15 日の製作会は、学生と地域住民のよい交流の場となりました。特に 4 年生の荒生君が中心となり住民の方々への指導を行い、サポートとして他の学生が地域住民の方と 1 対 1 もしくは 1 対 2 でアドバイスをしていました。完成した時には、歓喜の声と共に、私たち学生へ感謝の言葉が向けられ、とても嬉しく感じました。

4 日の講習会後には、齋彌酒造さんの蔵をお借りして懇親会も行われました。帝国ホテルで修行したシェフによる豪勢な食事と、齋彌さんから美味しいお酒を振る舞っていただきました。

次回はもっと多くの方々に参加して頂き、地域の絆をより一層深め、取組んでいきたいと思います。

（粟野・４年）

地域の方々も楽しみました

◀ On the Cover

SENBA Bldg（大阪府大阪市）
写真は大阪にある船場ビルで、1925 年から変わらないまま、登録有形文化財指定建物としてレトロな雰囲気を保っている。また、雑居ビルでありながら中央には長細い中庭があり、住環境を整え美化するという考えの欧米の手法を採り入れているのが面白い。（東海林）

石脇通りがアカルク

今回の夏季集中研究のメインとなったイベントは、浴衣で石脇通りを歩く他、様々な催しが行われました。

■「秋田舞妓と歩く石脇通り」では、秋田舞妓の方々が来た途端に一目見ようという人で、秋田舞妓の方々を囲む人だかりができていました。歴史的な街並みが残る石脇通りを歩く舞妓さんの姿は、イベントに参加した方々の印象に強く残ったのではないかと思います。

■ ブラウブリッツ秋田さんの「たんころフットボールパーク」は、地域の子どもたちが多く参加しました。子どもたちが元気よくサッカーボールを蹴る姿を見る方々の表情も楽しそうでした。

■作左部医院さんの「体力測定、いつまでも歩くために」では、参加者が握力の測定や片足立ちなどを行われました。測定後には結果を元に作左部さんからアドバイスがいただけることもあり、多くの人が体力測定に参加していました。

■また、都市アメ研のパネル展示では、A 班の「すぐできるまちなみ整備」、B 班の「サイン計画」についてのパネルや昨年の夏季集中研究のパネルなどを展示しました。イベントの会場である石脇通りの研究に興味を持った地域の方々が熱心に話を聞いてくださり、パネルの説明をする都市アメ研メンバーにも熱がこもっていました。

■イベント全体を通して見てみると、予想以上の人で賑わい、浴衣で歩く人もたくさんいました。また、皆で作成したたんころりんが通りを仄かに照らし、それを囲み話し合っている人も見られました。たんころりんや、通りに住む方々が玄関先に出してくださった暖簾と提灯が夜の通りを飾り、この日は人々が行き交う昔の石脇通りのようになったのではないでしょうか。

　谷合さんがイベントの始まる直前におっしゃった、「私たち実行委員も楽しんでやりましょう。」の言葉通り、石脇通りに来た地域の方々だけでなく、イベントを企画した実行委員の方々の楽しそうな明るい表情もとても印象的でした。大成功に終わったこのイベントが来年以降も開催されることを期待し、また、その第一回目に関われたことを嬉しく思います。（池・４年）

※写真は荒生君が撮りました。天野さん、山口先生もヒッチコック風に写っています。

実行委員からのひとこと

夕暮れに、たんころりんの仄かな明かりが映える。

こんなにも浴衣を持っているひとが由利本荘にいたのだろうか。まるで昭和の初めにﾀｲﾑｽﾘｯﾌﾟしたかのような幻想的な風景に心を癒される。車椅子のおじいちゃんを囲んで、若いｶｯﾌﾟﾙが、子連れのﾏﾏさんが、華やいだ若い娘たちが笑顔でそぞろ歩く。

石脇通りを近所の方に浴衣でぽつぽつと歩いてもらうつもりではじめた企画が予想外の賑わいに。石脇通り商店の夜店、秋田県立大学の学生さん達の展示発表、作草部医院では介護予防のｲﾍﾞﾝﾄ、ﾌﾞﾗｳﾌﾞﾘｯﾂ秋田の子供向けのｻｯｶｰｲﾍﾞﾝﾄとｿｰｼｬﾙｷｬﾋﾟﾀﾙの相乗効果が生んだ奇跡でした。

NPO 法人
由利本荘にかほ市民が健康を守る会

谷合　久憲

夏季集中研究

今年の夏季集中研究は石脇プロジェクトに合わせて、8 月 22～23 日に由利本荘市石脇地区を対象として実施しました。

A班　すぐできるまちなみ整備

『すぐできる』とは・・・

私たちが考える『すぐできるまちなみ整備』とは、住民主体で進めるまちなみの景観整備のうち、行政の援助に頼らないものを指す。

住民の合意 → 行政への申請 → 実施

行政の援助を受ける場合、景観の変化が大きいが、住民の合意後、行政への申請などが必要なため、変化が見えるまでの期間が長い。

住民の合意 → 実施

行政の援助を受けない場合、景観の変化は小さいが、住民の合意後、変化が見えるまでの期間が短い。

提案経緯

石脇通りには歴史的な建造物が点在している。しかし同時に現代的な建物も混在しているために通りの一体感が少ない。
そのため、石脇通りの歴史的な素材を生かした一体感のあるまちなみを目指す。
また、イベント時には石脇通りの明治後期から昭和初期の雰囲気を出し、通りを演出する。

石脇通りの歴史

その昔、海辺の村であった石脇村は尾浦と呼ばれていた。
元和 9 年（1623）、本荘・亀田両藩が成立。石脇は亀田領となる。
元和 10 年（1624）、石脇の百姓たちの藩への申立てにより、町立てが進められるようになる。
寛永 2 年（1625）、亀田藩領内一斉検地が行われ、「石脇」の地名が初めて記される。
天明 8 年～弘化 3 年（1788～1846）、石川善兵衛親子によって黒松が植林され、畑地・居住地として開発される。
港町としての賑わいの他に、消費地本荘城下へ日常の生活品を販売供給する亀田藩側の供給基地としての役割を果たした。
子吉川を挟んで亀田藩と本荘藩の摩擦が絶えず、商売・交易の禁止が何度も行われた。
明治 10 年（1877）、船橋「有利橋」が竣工する。
明治 17 年（1884）、石脇町大火。280 戸（戸数の 8 割）焼失。
明治 22 年（1889）、本荘町と石脇町が合併
明治 23 年（1890）、新由利橋（木橋）が完成。「飛鳥渡し」が廃止される。
昭和 6 年（1931）、鉄橋が完成。モダンなデザイン。
平成 4 年（1992）、「石脇神楽」が市の無形民俗文化財に登録される
平成 10 年（1998）、齋彌酒造店の店舗・蔵などが国の登録有形文化財に登録される。
平成 25 年（2013）、コンクリート橋が完成。

引用参考文献
1) 本荘市史　通史編 I
2) 本荘市史　通史編 II
3) 本荘市史　通史編 III
4) 本荘の歴史　普及版
5) 石脇財産区八十年誌

すぐできるまちなみ整備の提案

商店
すぐできること
営業している店舗にのれんを出してもらう
地域の人との合意が必要
イベント時に店舗の貸し出し・営業をしてもらう
空き家の確認をして、たんころりん等の保管・展示をしてもらう

住宅
すぐできること
通りに連続性を持たせるため植栽で統一する
地域の人との合意が必要
通りに連続性を持たせるためブロック塀に板を張る
空き地・空き家を利用して、地域の交流の場にする

たんころりん
すぐできること
竹を亀田地区に供給してもらえるか確認する
竹を加工する機械があるか確認する
地域の人との合意が必要
講習会を開き、たんころりんを作成、
さらに自宅で保管してもらう
加工機械が見つからなければ、購入してもらう

たんころりん（2015 年 8 月 23 日）

A班は、事例調査や議論を通して、石脇通りのまちなみ形成の経緯と現在の石脇通りの現状を分析しました。その結果から、石脇通りで「すぐできるまちなみ整備」についての提案を行いました。また、今回の夏合宿で参加した、たんころりんプロジェクトを継続していくために、問題の解決案を探りました。イベントを通して、住民の方の少しの意識で石脇通りは大きく変わっていけるのではないかと感じました。（天野・４年）

B班　石脇サイン計画　　総合案内・誘導・名称サイン

1. サイン計画と目的

サインとは、人々を公共施設や観光地などの目的地へ誘導案内するものを指す。
なお、本提案では石脇地区の魅力である歴史的環境を顕在化させ、都市景観の向上を図ることを目的とする。

2. 配置計画

・総合案内サイン
石脇通りにおいて、最も規模のある駐車場付近に設置する。
・誘導サイン
東西の交差点付近の 2 箇所と石脇通りの中心部付近である公徳館前に設置する。
・名称サイン
公徳館や齋彌酒造店といった石脇通りの歴史的・文化的な建物を基準に等間隔に設置する。

3. サイン計画案

・総合案内サイン
「周辺を灯す総合案内板」

・歴史的建造物や農家・店舗等の案内・説明を行うサイン。
・素材はコンクリートと磨りガラスを用いる。
・夜間は磨りガラスのライトアップを行う。
・地図に各建造物の写真やイラスト、説明文を載せることで、分かりやすい総合案内サインとする。

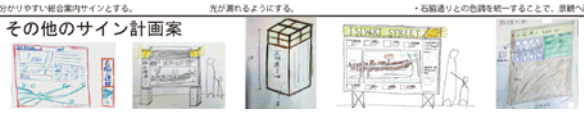
・誘導サイン
「石脇通りへようこそ」

・湧き水の波を模した曲線的なデザインの誘導サイン。
・素材はコンクリートと表面には磨りガラス。
・市花である桜の模様を施した。
・夜間には表面磨りガラスとコンクリート隙間から光が漏れるようにする。

・名称サイン
「石脇道しるべ」

・石脇通りの歴史、地名や歴史的建造物等石脇通りに纏わる名称をサインとして示すサイン。
・石脇に纏わるイベント事や文化的、歴史的な事柄を描く。
・石脇通りとの色調を統一することで、景観へ配慮。

4. その他のサイン計画案



B班は、石脇通りの魅力である歴史ある街並みを顕在化し都市景観の向上を図ることを念頭に、石脇通りにふさわしいサイン計画案の提案を行いました。はじめは班員各々がアイディアを出し合い、サイン計画案のコンペを行いました。その上で議論し、現在から将来にかけて、石脇通りの街並みに馴染むデザインに仕上がったと思います。このようなサインがあれば、石脇通りを訪れた方に一目で石脇のことを知って頂けると考えます。（荒生・４年）

建築学研修の成果

都市アメニティ研究室の４年生の建築学研修の概要をご紹介します。

全庁統合型時空間地理情報システム導入に伴う情報共有化による業務改善効果の一考察

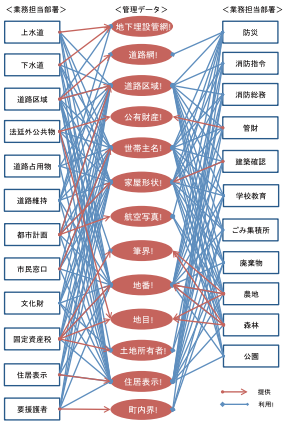
～A 市におけるケーススタディー～

天野玲奈

全庁統合型時空間地理情報システムとは、全ての部署がそれぞれ管理している共有可能な情報を、時間軸を通して電子地図上に反映させ、組み合わせながら、閲覧・維持更新することができるシステムである。

A 市では、全庁統合型時空間地理情報システム（以下、GIS）の導入を検討している。自治体への時空間 GIS の導入により、地物情報の共有、業務時間短縮などの経費削減効果が見込まれる。また、便益効果として住民サービスの向上につながる。今回の A 市では、時空間 GIS 導入によってどのように業務効率が変化し得るか具体的に調査した。

既存 GIS を運用している部署と、時空間 GIS 導入により業務の改善が見込まれる部署の職員を対象に行なったヒアリング調査から、時空間 GIS 導入前後の業務プロセスの変化について分析した。時空間 GIS 導入後は、情報の共有化により大幅な時間短縮効果が得られることがわかった。今後は業務にかかっている詳細な時間（コスト）を出し、具体的な経済効果について ABC[注]分析を用いて検討していく。



注　Activity Based Costing の略。活動基準原価計算と訳されることもある。組織の IT 投資効果を検討する場合などに利用される。

栃木市歴史的町並み景観形成地区の取り組みに関する考察

―街なみ環境整備事業と重要伝統的建造物保存事業の２つの取り組みに着目して―

菅谷美聖

栃木市では景観法の制定以前から町並みの景観形成に対する取り組みを実施し、歴史的町並み景観形成地区において蔵造りの建物を主体としたまちづくりを進めてきた。

栃木市歴史的町並み景観形成地区では、街なみ環境整備事業によって見世蔵や木造店舗の修景、県庁堀の護岸整備等が実施された。本研修では、嘉右衛門町周辺地区の取り組みを明らかにするとともに、街環事業と重伝建事業の両方に取り組んでいる全国の同様な地区を抽出し、街環事業と重伝建事業に取り組んだ時期と地区の区域どりの比較において、嘉右衛門町周辺地区の特徴を明らかにし、考察することを目的とした。

栃木市歴史的町並み景観形成地区の取り組みは、各種の個別事業や街環事業により、歴史的な町並みを維持・保全して、ゆるやかに地域固有の景観を整備し、その成果にたって重伝建事業を実施したという特徴が明らかになった。今後は栃木市嘉右衛門町地区と同様に街環事業を行った後、重伝建が選定された他 8 地区についても事業内容を詳細に把握し同様な特徴を有しているか否かを検証していく。また、具体的な空間整備の成果と特徴を明らかにする。

撮影 菅谷　　出典 嘉右衛門町伝建地区まちづくり計画

「歴史的街なみ形成・保全におけるまちづくり NPO の動向と取組み ―東北５県を対象とした調査から―」荒生 竜也

人口減少の著しい東北地方において、まちづくり NPO は増加傾向にあり、東北 5 県における歴史的街なみに関わる NPO は 9 団体と少ないながら保全・活用の事業に取り組むとしていることが明らかとなった。後期は歴史的街なみに関わる NPO へのアンケート調査と典型的取組みの現地調査により事業の詳細と成果の課題等を明らかにしていく。

表 所在地人口市町村から組織的特徴

	東北電力株式会社	仙台市	山形市	福島市	郡山市	会津若松市	白河市	二本松市	南相馬市
所在地市町村の人口数	32,784人 (-4.4%)	24,472人 (-8.2%)	80,367人 (-5.1%)	124,746人 (-4.2%)	53,857人 (0.9%)	39,241人 (-5.8%)	58,490人 (-4.8%)	130,823人 (-4.0%)	36,623人 (-4.2%)

表 取組み事業の対象と行為からその特徴

	東北電力株式会社	仙台市	山形市	福島市	郡山市	会津若松市	白河市	二本松市	南相馬市
事業の対象と行為	3b,5f	2b,3b,5b,5e	1f,3a,3f	3a,3b,3c,4f	2f,4f	3f	3a,3c,3d,7a,7b,7c	3f,5f	2a,3f,4a,4b,4e,5f

【対象の7区分】
1.自然環境 2.地域環境 3.街並み・景観 4.住宅 5.民間他施設 6.公共施設 7.道路・公園・河川

【行為の6区分】
a.情報発信・啓蒙・相談・支援 b.調査・研究・計画 c.提案・提言 d.建設・設備・修復
e.維持・管理・運営（保全・継承・活用

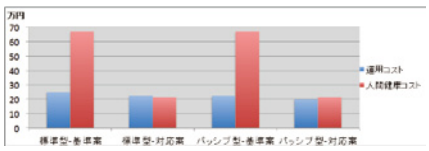
「歴史と風土を活かす継承型住宅の形成経緯と運用実績 ―東北６県を対象として―」粟野栞

「地域の伝統的様式を規範とし新しい構造や外形が付加した住宅」と定義した「継承型住宅」の取組みを行っている自治体を、アンケートにより抽出すると共に、典型自治体として金山町を選定し、金山町における継承型住宅の形成経緯と運用実績について分析した。

撮影 粟野

「戸建住宅の設計初期段階での仕様検討用 LCA ツールに対する建物タイプ選択機能の実装」池隆裕

これまでの研究で実装したプログラムを改修し、クライアントが住宅のプランと断熱性能のそれぞれ２つの選択肢の組合せにより、4 つのタイプを選択できるように試作した。また、室内発熱量として、人体・調理・照明についての値を PASSWORK の仕様に合わせて入力されるようにした。



アドバンスト自主研究

「コンパクトシティ形成に関する評価指標の基礎的研究」
ICC（Index of Compact City）研究グループ

本研究では，コンパクトシティ性の測定として如何なる指標が代表的な評価指標として設定しうるか，入手可能なデータのみで行うコンパクトシティ性の評価の妥当性はあるかについて，人口規模が5万人～50万人の44都市のデータを用い，検証しました。

研究するにあたって用いた資料は，国土交通省が提示している「都市構造の評価に関するハンドブック」や国勢調査の結果などです。これらの資料や指導教員との議論より，検証した6つの指標のうち「公共交通の機関分担率」，「市民一人あたりの自動車CO2排出量」，「全市人口に対するDID人口」の3つの指標において，コンパクトシティ性の評価に妥当性があるということが分かりました。そして，コンパクトシティ性が強い都市と中位の都市である札幌市と函館市で現地調査を行い，研究結果と実際の都市の様子を比較しました。

今後の展望としては，コンパクトシティと都市の人口規模について考える上で，コンパクトシティ性が低いため人口規模が小さくなってしまうのか，またはその逆なのかについて判断することができる指標や数値があるのかどうか，その因果関係を探っていくことができたら良いと考えています。

安藤みなみ，小島寛之，須田一陽（3年）

札幌市大通公園

指導教員から

今回の自主研は，コンパクトシティ性を測定する代表的な指標を「①生活利便性」「②健康・福祉」「③安全・安心」「④地域経済」「⑤行政運営」「⑥エネルギー」の6分野で調査・設定し，44都市に実際に適用してその妥当性を検討した。各種の統計データを探しあてての作業であったが，都市像と数値指標との関係を学ぶ良き機会になったと思う。

（山口）

教員の活動報告

山口邦雄准教授

【研究成果】

・科研費研究「コンパクトな都市再編に向けた日本型アーバン・ビレッジの形成に関する研究」の最終年として，「田園地域における居住地集約の取組みに関する研究」をまとめた（投稿中）。

・科研費研究「地方都市の持続性危機に対するリジリエンスとしての内発的地域マネジメント」をスタートさせた。

・日本建築学会都市計画部門研究協議会資料，「地区まちづくりとマスタープランのインタラクティブ性」

【都市・地域計画の実践】

・由利本荘市大門・本町通りまちづくり委員会の専門アドバイザー

・由利本荘市石脇通りの歴史的景観再生の取組み

・秋田県都市計画審議会（会長）等

浅野耕一准教授

【研究成果】

・平成27年度日本建築学会大会（関東）

・「住宅設計の初期段階での意思決定を支援するLCAツールの開発　その5　拡張性を考慮した実装に関する検討」
（佐々木翼・浅野耕一・長谷川兼一・菅野秀人・村田涼・宮岡大・金子尚志）

・「こどものあそび環境と向社会的行動力の発達との関連性に対する調査研究　秋田県横手市を事例として」
（守屋子貢・浅野耕一）

院生の活動報告

鎌倉卓史（M2）

日本建築学会神戸大会（2014）
「自治体地理情報システムの引継ぎに関する実態調査事例への一考察」

New member

①安藤みなみ
②秋田県秋田市
③“社会に貢献できる研究”を常に考え，研究活動に取り組んでいきます.

①佐藤基
②宮城県
③自分自身の知見を広められるように頑張りたいと思います.

①名前
②出身地
③抱負

写真

①高橋千晶
②宮城県塩竈市
③震災復興、社会の役に立つような研究活動に取り組みたいです.

①須田一陽
②新潟県新潟市
③活動を通して洞察力を磨くと共に，都市の知識を深めたいです.

①土濃塚拓
②秋田県北秋田市
③自分のしたい研究をはっきりとした形で発見しそれに向かって努力する.

①東海林優介
②秋田県由利本荘市
③過去の研究などを参考にし，自分のやりたいことを見つけ知識を蓄えていく.

①小島寛之
②岐阜県各務原市
③駑馬十駕. 自らの研究が社会に貢献できるよう学問に邁進していきます.

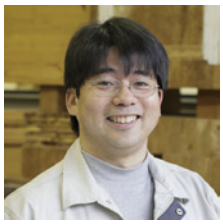
①紙屋柾邑
②富山県黒部市
③興味関心を持って取り組めるような研究テーマを見つけたいです

学科ニュース

教授就任のご挨拶

UAEL の卒業生、修了生の皆さん、おひさしぶりです。材料研の板垣です。

この 4 月に教授に昇任致しました。今年は教員の職について 20 年の節目であり、定年までのちょうど折り返し地点でもあります。この 20 年、がむしゃらに教育・研究に取り組んできたものの、自信を持って言える成果は何もなく、「20 年間、一体お前は何をしてきたんだ？」と自問して反省している次第です。しかし唯一の救いは、私と一緒に研究に取り組んできた卒業生・修了生の活躍を耳にすることです。私の教えというには口はばったいですが、卒業生・修了生の活躍に多少なりとも役に立っているのであれば、それは何よりの成果に思います。皆さんの活躍は我々教員の、そして後輩達の励みになります。体に気を付けて頑張って下さい。私も退職まであと 20 年、少しでも社会に役立つ成果が残せるように、教育・研究に励んでいきます。大学にお越しの際は、ぜひ訪ねてきて下さい。



建築環境システム学科
材料学講座
板垣　直行

北海道・東北支部設立総会及び交流会

6 月 27 日にホテルグランテラス仙台国分町にて、同窓会の「北海道・東北支部設立総会及び交流会」が開催されました。本学科 2 期生（材料学講座）の亀井沢圭介君を始めとする幹事達の尽力もあり盛会のうちに終わりました。本学科卒業生も多く参加し、都市アメ出身では 12 期生の清水里美さんが出席しました。卒業生達も社会の中核を担うようになり、同窓会も卒業生達だけで運営する機関として独り立ちしていける時機に感じました。

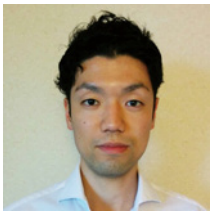
OB・OG の 今

みなさんこんにちは。６期生の千賀大輔と申します。この度ＮＬへの寄稿の機会をいただき、大変嬉しく思っております。

私は建設会社での勤務を経て、現在はメーカー系販売会社の住宅設備部門に勤めています。扱っている商材はエアコンやＣＯ２給湯器、ＨＥＭＳ、蓄電池などがあり、ハウスメーカーや代理店を通じてお客様に届けています。現在の業務内容は、機器メーカーと新商品の検討・開発を進めること、製品を採用いただくための営業活動支援などがあります。まだまだ勉強不足で、作る側の都合で企画を進めていたり、ユーザー目線が欠けた機能を考えていたりなど、反省することも多いのですが、出来上がった製品が多くのお客様に喜んでもらえるものになることを目標に、製品開発や改善に取り組んでいます。

仕事をして感じることは、コミュニケーションの大切さです。基本的に仕事は個人に割り当てられることが多く、各自の判断で仕事を進めていくことになります。個人の仕事上の知識や技術が求められることは当然ですが、その前段階として、いかに周りを巻き込んで高品質で効率のよいやり方にしていくか、ということを常に意識する必要があると感じています。大学生の頃はあまり考えたことがありませんでしたが、個人でやり遂げることは選択肢の一つで、必ずしも最善ではないと考えるようになりました。学生の皆さんも、就職後一人で仕事を抱え込むようなことはせず、相談や情報共有といったところからコミュニケーションを密にとるようにしてもらえたらと思います。

ますます活発になる都市アメ研の活躍に、ＯＢの一人としてとても誇らしく思っています。特に石脇のたんころりん、浴衣のイベントについて、新聞やテレビで取り上げられていることを拝見し、とても嬉しいのと同時にうらやましく思えてしまいました。先生方や後輩の活躍に元気をもらっています。これからも都市アメの活動を楽しみにしています。



秋田県立大学
システム科学技術学部
建築環境システム学科
6 期生　　千賀　大輔

UAEL information

ホームページで毎週のゼミの様子を公開中!!
http://www.akita-pu.ac.jp/system/aes/amenity/
（検索サイトから"都市アメニティ工学研究室"で検索）
NLのバックナンバーをHPからダウンロードできます

ニュースレターは、卒研生はもとより研究調査・活動でお世話になった住民や役所の方々、他大学の都市系研究者の方々等、毎回約１２０部を送付して情報発信しています。

OB・OGの皆さんへ
都市アメからのお願いです。ぜひぜひ、OB・OGのコメントへご協力お願いします。連絡は山口まで。

編集後記

あっという間に季節も秋になり、NL14 号も発行することができました。NL を発行する過程では、本当に沢山の方々に協力をしていただいておりますが、今年の夏季集中研究の内容はより沢山の人と実際に関わる良い機会だったと感じました。今後も、都市アメの活動をよろしくお願いします！
＜2015. 10. 29　NL編集部＞
菅谷美聖　安藤みなみ　小島寛之　高橋千晶　山口邦雄

UAEL 編集部
〒015-0055
秋田県由利本荘市土谷字海老ノ口
秋田県立大学システム科学技術学部建築環境システム学科
電話：0184-27-2053　mail：yamaguchi-k@akita-pu.ac.jp
担当　山口 邦雄